



この豪華な時計は、優雅で趣味のよいことで知られたオーストリアのプリンセスが所有していたものである。伝説的なジュネーブのジュエラー、ジルバール・アルバールが創作した。彼は彼女からインスピレーションを得てこの作品を創ったのであろうか？

文 ジョン・リアドン 翻訳 小金井 良夫

青い眼、豊かな髪、高い頬、気品ある笑顔、グレース・ケリーやオードリー・ヘップバーンに似た知的な視線……。後にマルタ・ツー・ウインディッツ・グレイト・オーストリア大公夫人となる、この驚嘆すべき美貌の女性は、ウクライナの都市ナジセーレーシユで1908年に生まれた。

彼女のロマンスに満ちた一生は、生来の魅力と情熱的な性格にふさわしい。通算5回結婚したが、エリザベス・テイラー同様、以前に離婚した相手と再婚したこともあった。生涯の愛を誓ったのは、最後の夫、澁刺たるヴィンセン



ツ・アルフレッド・ツー・ウインディッツ・グレイト大公である。それは戦争が終わった1945年のことであり、ヴィンセンツは32歳、マルタは37歳だった。まだ魅力溢れる彼女は、ここに至って安住の地を見出した。ヨーロッパで最も古い貴族の一家系に迎えられたのである。

夫妻はローマを本拠地に世界中を旅行し、シンガポール、カイロ、ウイーン、ニューデリーで一時生活した。教養豊かでエレガントなマルタは6か国語を話し、40歳の時、中断していた若い頃の関心を蘇らせ、パリ美術学校に入學した。彼女は直ちに頭角を現し、写実、抽象主義から具象作品に大胆な境地を開き、50歳の頃には画家としての名声を確立していた。

スタイリッシュでルネサンス的な女性の手首を包むタイムピースは、独自性溢れるものでなければならぬ。ここに登場するのがジルバール・アルバールである。1930年ジュネーブ生まれの、先見の明に恵まれたジュエラー、ジルバール・アルバールは、わずか15歳で修業を開始した。10年後、パテックフィリップによって見出され、同社のデザイナー兼創作部長となった。彼の息をのむような作品は、革、甲虫、さらには化石などの型破りな自然素材を用いることで注目を集めた。パテックフィリップでは、特にブランク・シ、モンドリアンなどのモダンアートや彫刻からインスピレーションを得て、特異な三角形や菱形の形状のタイムピースを創作した。現在85歳の彼がパテックフィリップ在職中の1955年から

1962年の間に創作したタイムピースは、今日も追い求められ、前衛的である。

ジルバール・アルバールは数々の栄誉を受けることになるが、1960年に彼が創作したこのタイムピースが、ジュネーブ市から賞を受賞した。彼が大公夫人を意識していたのかどうかは分からない。この独創的な作品が、相応しいオーナーを見つかることを願っていたのであろう。

洗練されたこの18金ブレスレット・ウォッチは、文字盤が隠れるようになっていて。色とりどりの、サイズの異なるゴールドの小片が、細心の配慮を込めてモザイクのように配置され、ブレスレットを形成する。完璧な仕上げは、彼自らが製作したことを示唆している。クリーミーなホワイトからブラックに近いものまで、異なる色とサイズの12個の真珠が、海藻を思わせるブレスレットについている。純真なこの作品は、人魚姫に相応しい。混沌から秩序が生まれる微小な宇宙。戦争と波瀾重畳のロマンス。正にマルタの人生そのものである。彼女は1961年にこれを購入し、生涯手放すことはなかった。

1998年に彼女が死去してから、2004年まで家族の元にあったこの作品は現在、パテックフィリップ・ミュージアム所蔵。時代を先取りした芸術家大公夫人と創造的なビジョンを持つアーティストへのトリビュートである。✦

「パテックフィリップ マガジン・エクストラ」(patek.com/owners)にて、この記事の特別関連コンテンツをご覧ください。

オーストリア社交界の美女マルタ(左上)が所有していたエレガントなブレスレット・ウォッチ(上)。紳士用タイムピースに用いられる8"85リーニュのムーブメント搭載。著名なデザイナー、ジルバール・アルバールが創作し、1960年の「モントル&ビジュエリー」ジュエリー・ウォッチ部門でジュネーブ市賞を受賞。